

令和 6 年度 特別の教育課程の実施状況

文化学園大学杉並中学・高等学校

〔Ⅰ〕自己評価

本校ダブルディプロマコースは、文化学園大学杉並中学・高等学校とカナダ、British Columbia（以下、BC）州立高校の海外校である Bunka Suginami Canadian International School（以下、BSCIS）に同時に在籍し、両校のカリキュラムを修了するプログラムである。現在この課程を中等教育全 6 学年で展開しているが、その教育内容は十分に機能し、有意義な教育活動が展開できていると分析している。同教育課程の効果は、単なるイマージョン教育による語学力の向上にとどまらず、協調性や調和に重きを置く日本的な価値観を学びながら、同時に批判的思考や創造的思考の熟成にまで手を届かせる BC 州の教育課程を体験することは、特に価値観形成において、一般的な教育課程では得難い深い変容を生徒にもたらしている。

同コースの教育活動の真価は、数値では表せない生徒の変容にあるが、大学進学実績にもその成果は表れている。令和 7 年度入試では、国内大学への進学を目指した 22 名の生徒のうち、私立大学最難関群である「早慶上理 ICU」に延べ 10 名が合格した。そのうち 6 名は海外就学経験者選抜によって出願している。これは、BSCIS の卒業資格をもって受験することができる入試方式である。また国公立大学群では、今年度初めて国際教養大学への進学者が輩出された。海外大学進学を目指した 20 名は、延べ 43 校からの合格を受けた。このうち、Times Higher Education 社による「世界大学ランキング」（注）の上位 100 校に入る大学が 9 校含まれる。

〔Ⅱ〕自己評価を踏まえた学校関係者（当該学校の教員を除く）による評価

ダブルディプロマコースの優位点は大きく分けて 3 つある。

1. 日本で初めて BC 州の教育課程を取り入れ、2 つの学校の教育課程を融合させたコースで開設以来 10 年となるが、着々と成果を上げてきている。文化学園大学杉並中学・高等学校の堅固な教育基盤の上に、知識のみならず教養と「智慧」を兼ね備えた国際人の育成を目指している。カナダの教育課程と日本の社会・歴史・文化を英語で比較・対比しながら学ぶことにより、両国と国際社会の理解をより深め、生徒の世界観を広げている。生徒は、このコースで身に着けた知識や智慧を発信することができるようになってきている。このことは外部の来訪者からのフィードバックからも明らかである。さらに令和 4 年度より中学 1 年にもダブルディプロマコースを新設し、BC 州教員免許保持者による授業を週 17 コマ（英語 10、数学 5、理科 2）行えることになった。このことにより、より早い時期から生徒は、BC 州の教育に触れることができ、学校全体として語学力や教養、発信力が底上げされたように感じられる。

2. PBL の推進：このプレゼンテーションを通して学ぶ学習法は、相対的に見て非常に理にかなった学習法である。発表者は、準備することからまず学び、そのプレゼンテーションを聴く生徒は、リスニング力や質問や意見を構築する力、すなわちクリティカルシンキング力を高めている。生徒達のためのプレゼンテーションではなく、外部の教育関係者や実業界で成功を収めた人物を招聘し、生徒達が実際に外部との接触を英語で行う実践的学習となり成果を上げている。また中学1年より PBL 型の授業に取り組むことにより、これまでの中学1年の生徒に比べ、深い思考力、プレゼンテーション力を発揮することが出来るようになった。またこの PBL 型の授業スタイルを杉並学園校教育課程の全教科の授業に取り入れ、学校全体が PBL 型の授業を行えるようになってきており、生徒の思考力、プレゼンテーション能力が向上した。
3. 校外学習：教室内で学習した知識や習得したスキルを実際に試してみる学習は、生徒達の学びを実体験させる効果的な学習となっている。国内での校外学習はもとより、高校1年次の Gr.10 カナダサマープログラムで、ホームステイを1か月間体験しながら、Drama と Computer Science を履修することは、主に語学力や異文化理解において、同コースで高校3年間を過ごす自信を育む貴重な機会になっている。

提案：国内理系大学進学指導の充実

理系各学部へ進学したい生徒にとって、海外大学であれば選択肢は充実するが、国内大学への進学実績は限られている。語学力を高めながら理系の専門性の高いフィールドで活躍できる生徒を育てるために、理系教育を充実させてほしい。

外部評価（文化学園大学 元主任教授：坂本 政子）

[Ⅲ] 課題の改善のための取り組みの方向性

知識とスキルの会得よりも批判的・創造的思考力の伸長をねらうカリキュラムの特性上、一般選抜との親和性国内理系学部へ進学の可能性を広げるには、年々数の増えている総合型選抜・公募制推薦入試において、出願の可能性を広げたい。令和7年度より、BSCIS Gr.12 の選択必修科目である Physics 12 が日本の教育課程の「物理」に、Anatomy and Physiology 12 が「生物」にそれぞれ読み替えが認められた。この事で、出願要件に「物理」や「生物」の履修を含む大学への出願が可能になった。また国公立大学群では、大阪大学理学部の国際科学特別入試に BSCIS の卒業資格を持って出願を認められるなど、国内大学理系学部への出願の可能性が徐々に広まりつつある。今後、理系学部に進学する生徒の割合が増え、科学分野でグローバルリーダーになれる人材が本校から輩出されることを期待したい。

《出典》

(注)Times Higher Education. (2024). World University Rankings 2025.

<https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/latest/world-ranking>

以上